

後世に伝えたい宝物

―松本家住宅―

市内には、縄文・弥生・古墳時代などの遺跡が多数存在し、また、国・県・市合わせて956件の指定・選定・登録文化財や、多くの歴史文化遺産が残されています。市街地には江戸時代の佇まいを残す古い町並みが広がり、国指定の高山陣屋や照蓮寺、飛騨国分寺など観光の見どころも多く、近年では外国人観光客も多く訪れ、国際観光都市として国内外に知られているところ です。

それら多くの文化財の中から、今回は国指定重要文化財である松本家住宅を紹介します。

高山陣屋の前、中橋のたもとに



ある日枝神社の御旅所から川原町通りを南に向かって進むと、中橋周辺の喧騒とは打って変わって、住宅が建ち並ぶ静かな地域になります。この通り沿いの所々には古い町家が見られますが、その中でもとりわけ古い建物が「松本家住宅」です。

この建物は、高山の町のほとんどを焼き尽くした明治8年の大火をまぬがれ、高山の町家としては江戸時代の姿を今にとどめる唯一のもので、市内の町家の中では最も古く、改造もあまりされていない建物です。

主屋は屋根を2方向に葺き降ろす「切妻造り」で、2階の天井が低い中二階建て、前側には「むくり破風」のついた小庇があり、のれんを掛けるために使われました。また、2階の連子窓、1階の出格子など、高山の町家の典型的な姿を示しています。



大戸から内部に入ると「どじ」と呼ばれる土間があります。土間はこうした町家にはよく見られるもので、建物の前側から後ろ側まで一続きに通っています。この「どじ」に沿う形で、「みせ」「おえ」「だいどこ」といわれる部屋が並んでいます。それぞれの部屋の向こう側には「おくみせ」「かずき」「仏間」「座敷」があります。2階には広い座敷や茶室も設けられています。このように部屋がたくさんあり、2列に並ぶ間取りを持つ家は、高山の商家の中でもかなり豊かなものだけでした。

とても開放的な印象を受けます。この吹き抜けの空間では、梁や桁、束柱といった建物の構造を支える部材が縦横に組み込まれている様子を見ることが出来ます。この梁組は、高山の町家では普通に見られるものですが、同じく国の重要文化財になっている日下部家住宅（大新町1）ほどには太い木材を使わず、また、吉島家住宅（大新町1）に比べると梁や柱の数が多くあります。松本家住宅の梁組はこの2軒の家より簡素だと言えますが、この点が古い町家であることをよく表しています。主屋の裏には中庭があり、その奥には土蔵2棟が並んで建っています。

この家のもとと、薬種商を営んでいた原三右衛門の住居兼商家でしたが、明治45年に煙草製造卸や金融業を営んでいた松本吉助の所有となりました。その後、昭和59年に建物と敷地の一部が高山市に寄贈されたことを機に保存整備工事を実施し、土・日・祝日には一般への公開を行っています。

指定年月日…昭和46年12月28日
所在地…上川原町125番地
建物…主屋1棟、米蔵1棟、
漬物蔵1棟